

開いた土間のあるまち

木造密集地域の魅力は、

そこに漂う生活感とそこに人が住んでいると感じさせる安心感だ。

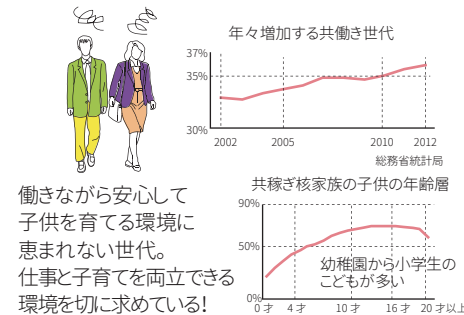
この魅力は、共働き世代で子育てをしている家族にとって適した住環境なのではないだろうか。

そして、ここを舞台とした萌える防災には、ハードの設えに加え、そこに住むことが楽しい、やみつきになってしまうような、そんな木造密集地域の環境が必要なのでは、と思う。

そこで、目が行き届き安心感がある路地に面して、「開いた土間」を挿入する。

互いを支えあい・助け合える住民同士のつながりは、地域の防災力を高めるに違いない。

共働き世代の現状



木密の魅力である生活感・安心感漂う環境は、そのような環境に合っているのではないだろうか。

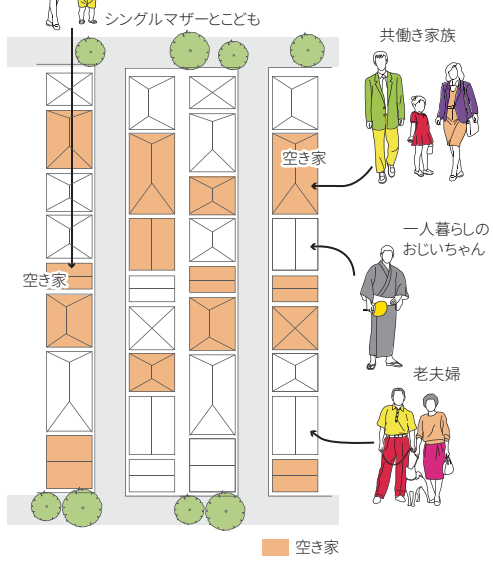
木密高齢者の現状

今の木密地域の主な居住者は高齢者。時間を持って余した爺ちゃん婆ちゃん。体力的にも、家に引きこもりがち...

「開いた土間」で思う存分趣味を展開し、子どもや若い世代の人々と交流できるうつつがあると良いのではないだろうか。

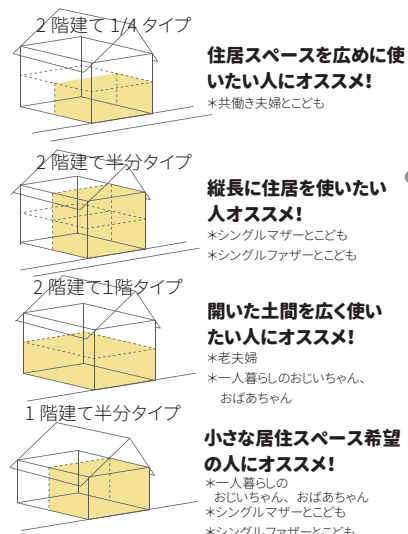
共働き世代が木密に越してくる!!

今後増える空き家に共働き世代が移住。若い世代とこどもの住み手が増える。木密を地域として残していくには、若い世代が必要だ。

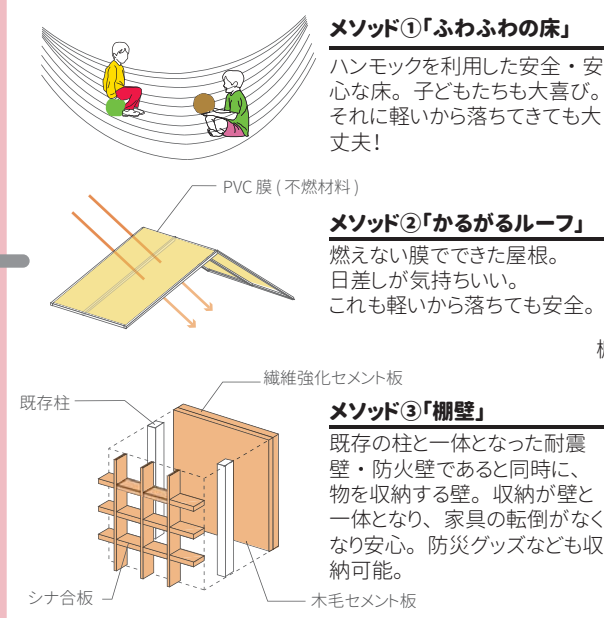


空間のおすそ分け

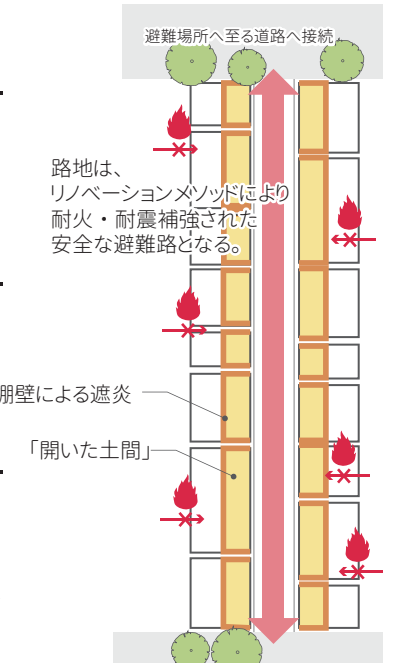
「開いた土間」と住居タイプ
路地は目が行き届き、生活感が溢れた場となっている。そこで、こどもを育て、個性発揮の器となる「開いた土間」を路地側に設けます。



「開いた土間」の3つのリノベーションメソッド



安全な避難路としての路地



開いた土間のあるまちの姿

